

## 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

### 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

### ○記入方法

#### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

#### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

#### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

#### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 和ごころ
(ユニット名)	竹とんぼ棟
所在地 (県・市町村名)	長崎市白鳥町
記入者名 (管理者)	小川 典子
記入日	平成 20 年 10 月 7 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自治会に入り、会議等参加している。		自治会会議参加・自治会催し物参加。(夏祭り等)
2	○理念の共有と日々の取り組み 参加している。	基本理念を貼り共有している。夏祭り等自治会の催し物への参加を行なっている。		基本理念を貼り共有している。又、各スタッフに配布している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	基本理念をリビングに提示している。又パンフレット等にも一緒に添付している。運営推進会議の開催。		今後も基本理念をリビングに掲示し、パンフレットに添付・地域推進会議の開催の継続
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出・退社時の挨拶、受診・買い物等の時も挨拶を心がけている。又、散髪・病院・買い物等近くを利用する事を心がけている。		今後は日常的に気軽に立ち寄ってもらえるような開かれた施設になる様努めていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており体育副部長である。月2回の会議に出席しており行事にも参加している。		夏祭りの参加、精霊流し、スポーツ大会(ドッジボール大会・ソフトボール大会等)の参加を行っている。

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない。	○	まずは相談から始める。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を実施する意義を理解し・評価を活かし改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告等行っており出された意見・要望は検討、実施等行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来する機会を作っていない。	○	市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来し、サービスの質の向上に活かす様努める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について学ぶ機会がない。	○	勉強会への参加。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ってないが、虐待が起らないように・見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。	○	高齢者虐待防止関連法について勉強会への参加。又、内部勉強会を開く。

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居相談・契約時に説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居されてからも、不安や疑問点があれば説明を行っている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常会話より聞き取りを行っている。</p>	<p>今後も日常会話より聞き取りを行い、意見を反映し不満・苦情の改善に努める。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>御家族の面会時に報告・連絡等行っている。又、月に1回通信を各人に出している。急を要する場合は電話報告も行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時等、アンケート回収等で頂いた要望・苦情はスタッフ間で話し合い改善に向けて対策を行っていく。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議実施中。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員を確保するため勤務の調整に努めている。</p>	<p>○ 御家族・御本人の希望等現在ない。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動時は配慮している。必用最低限 異動は行っていない。</p>	

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の育成は、管理者を中心に現場のスタッフが行っている。運営者が立てる計画はない。</p>	<p>○</p> <p>運営者は管理者職員を段階に応じて育成していく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者と交流する機会を持っていない。</p>	<p>○</p> <p>まずは交流を行う。徐々にネットワーク作りや勉強会・相互訪問等の活動へ広げていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		<p>現場スタッフの現状を把握してもらう。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務表を確認しているようだが、現場に来る事はない。職員個々の努力・実績の把握は管理者が行い報告している。</p>	<p>○</p> <p>定期的に運営者が直に様子を観に来る。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>日常生活の会話を増やし、受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時、入居時アセスメント、入居後の面会時に会話を多く持ち、受け止めるよう努めている。</p>	

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、入居時のご家族の情報と実際入居した時の状態が大きく異なることが多く入居してからの「必用としている支援」の見極めを中心に対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要な入居者は、場になじめる様サービス前に遊びに来られたり雰囲気を見に来られたりされている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の風習等、入居者様一人ひとりの能力に応じた質問等で学んでいる。会話やニュースの話題等で喜怒哀楽等を共にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、会話等で喜怒哀楽を共にしている。	○	新人職員にも積極的にご家族様と会話し、信頼関係を築くよう指導している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	会話の中でご本人様・ご家族様の理解に努めている。又、表情・声のトーン等でも理解するよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の支援を行っている。また美容室等なるべく馴染みの所を使用するよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人ひとりに応じた支援をしている。入居者のレベルが違いためトラブルにならないよう所在を確認し見守りを強化している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も入院施設へのお見舞い等行っている。また亡くなられた場合、お通夜・告別式に参加し、新盆参りをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の可能な方は希望・意向を聞き、把握・実行に努めている。困難な場合はスタッフ側で検討しご家族様に相談し更に検討をしていく。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話の中から生活歴・生活環境・趣味等の把握に努めている。又、ご家族面会時に情報を聞くようにしており、スタッフ間で共有している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様一人ひとりの過ごし方・心身状態を把握するよう努め、プライベートを大切に支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意見・要望等聞く様に努め、スタッフミーティングを行い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っており、状態変化があった場合追加や新たな計画作成を行っている。		

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間の申し送り・記録等情報を共有し介護計画等の見直しに活かしている。又、月1回ユニットミーティングを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御家族・入居者様の要望に応じ支援を行っている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・ボランティア・警察・文化・教育機関等との協力は行っていない。消防訓練・自治会との協力体制はとっている。	○	現在ボランティア受け入れ体制を整えている最中である。整い次第協力を得ていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他サービスを利用する為の支援は行っていない。	○	本人の意向・必要性に応じて他サービスの利用する為の支援を行う。が、現在希望者はいない。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に集まりがあり、情報交換を行っている。	○	今後も集まりに参加し情報交換等行い協働に努める。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なるべく 入居前からのかかりつけ医を受診する様ご本人様・ご家族様の希望に沿っている。施設に近い病院へ変更を希望される方やご家族もおられ、要望に対応している。		

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医との連携に努めている。入居者様の治療経過、日々の状態等スタッフより相談や報告を行っている。		今後も協力を得ていく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携を行っており週1回来設される。又各ユニット看護職員へ相談等行い、支援を行っている。		今後も協力を得ていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、治療目的・方針・入院期間等聞いたり、退院時期近くに病院のDr・担当NS等スタッフでのカンファレンスを行っている。		今後も協力を得ていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	繰り返し話し合っていないが、重度化した場合や終末期のあり方について会話を持っている。		繰り返し話し合うようにする。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化・終末期について当施設が出来る事・出来ないことを明記しご家族に説明・同意・署名・捺印を貰っている。		説明希望者には都度対応していく。その為には各スタッフがきちんと把握しておくように日々学べる様情報交換する。又、新人スタッフへの指導を行う。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時は突然である為、十分な話し合いは行えていないが、介護(看護)サマリーという形で情報提供を行っている。		今後も同様に行っていく。余裕がある場合は、対応出来るようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>言動等には充分気をつけ業務を行っている。誇りやプライバシーを損ねるような個人情報の取り扱いはしていない。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>行動を起こすときは必ず声かけし自己決定を促している。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>入居者一人ひとりのペースを大切にしている。無理強いはない様心がけている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>入居者一人ひとりの能力に応じて行っている。</p>		理容・美容は本人の望む所をお願いしている。今後も同様に行う。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>入居者一人ひとりの能力に応じて行っている。準備はスタッフが行っているが 食事は一緒にしている。下膳・食器洗い等できる方には手伝ってもらっているが、毎回されるとは限らない。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>一人ひとりの状態に合わせた支援をしているが、全員が同じものを食べている。ご家族の持込がある場合、それを優先的にたべてもらう事もある。(提供のおやつが食べにくい。消費期限と等の理由により)</p>		

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表をつけており、パターン・間隔の把握に努めている。それを活かし誘導・声かけ等行っている。		今後も排泄チェック表をつけ把握に努める。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望をまず聞く様にしている。季節にあった菖蒲湯・ゆず湯などの他入浴剤の使用も行っている。入浴に応じない方は、どの様な声かけ・時間等で成功したかをスタッフ間で共有している。		無理強いほしない程度に心がける。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的にプライベートな時間を大切にしており、ほとんどの方は居室へ戻られる。落ち着きがない・見守りが必要な場合はリビングのソファや畳にて休まれる方も居る。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	会話の中から生活歴や趣味等聞き、楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。ご家族様からも情報をもらっている。		散歩や書道、テーブル拭き等、無理強いしない程度に行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりの能力に応じて支援を行っている。		入居者一人ひとりの能力に応じて支援を行っていく事を続ける。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	確実に行えるわけではないが、受診・予定・その日のその入居者様の体調に応じて支援して。		今後は施設全体ではなく各個人主体で戸外に出かけられる様に支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レクリエーションという形で行っている。ご家族様との外出・外泊は自由。		花見等 今後も外出の機会を多くしていく。

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様一人ひとりに合った支援をしている。		電話希望時は対応している。手紙については投函のみ支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問してもらえるよう、挨拶・声のトーン・表情等スタッフが心がけている。		面会場所は居室だったりリビングだったり御家族様に任せている。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり現在拘束者はいない。		今後も身体拘束はしない。又、スタッフ間で何故身体拘束が悪いのかを話し合い情報を共有する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強い方がおり、離設・危険防止のため現在やむを得ず施錠している。	○	今後は入居者様が落ち着いている時は短時間でも開錠して対応するようにする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様の所在・様子を把握し安全に配慮している。		今後もプライバシーに配慮しながら所在・様子を把握し安全を確保していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様一人ひとりのレベルに合わせ危険を防ぐ取り組みをしている。		危険からすぐに遠ざけるのではなく、見守り強化等に対応、必要であれば介入といった対応をしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者様一人ひとりの状態に応じた事故リスクスタッフ間で共有し事故防止に取り組んでいる。		今後も入居者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいく。

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変・事故発生時のマニュアルがある。救急救命の講習を受けている。急変(熱発・タッピング)等の勉強会を行った。		定期的には行っていない為、安定した知識保持の為に各スタッフが復習を行ったり再度勉強会を開催する。又、新人職員にも周知徹底を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は定期的に行っているが地震・水害については行っていない。		再度火災・地震・水害についてスタッフ間での話し合いを行い必要な避難経路・知識等の確認・共有化を行う。自治会に入っており地域の方々への協力をお願いしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者様一人ひとりのリスクについてスタッフ間で話し合い対応策を立て、御家族様に説明し情報を共有している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕のバイタルチェックを行っている。体調不良の訴えや表情・言動等注意し都度再検を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報により理解している。以前薬局よりの勉強会があった。処方薬の変更・追加・減量等は症状の変化に注意を払っている。		今後も定期的に勉強会を開く。又スタッフ一人ひとりが把握に努め、内服薬処方時には確認を行う。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応の為、取り組んでいる。		入居者様一人ひとりに合った予防策を行っている。薬によるコントロール・腹部マッサージ・水分量・食物繊維等 それでも便秘になるようであれば主治医へ相談している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを一人ひとりに合った支援を実施している。		義歯仕上げ磨き・声かけのみ・全介助等分けて入居者様一人ひとりに合った支援をしている。

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在外部の栄養士に献立を立ててもらっておりバランスは良いと思われる。入居者様一人ひとりに合った量も把握している。水分量も都度、飲水促している。急激な食事量・水分量低下の場合、体重測定・バイタル等気をつけ改善されない場合は食事形態の変更や主治医に相談をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがある。また 季節に合った内部勉強会も行う。外部の勉強会へも参加している。		今後も勉強会(内部)を開く。積極的な外部勉強会への参加。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夕食後タオル・調理器具の消毒・水周りの洗浄等行っている。食材は搬入のため冷蔵・冷凍保存しており管理には充分気をつけているが、使用前には色・におい等確認を行っている。		今後も継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	事務所のブラインドを開け、明るい雰囲気を出している。また、玄関までスロープがあり、その両脇の景色や小池が和の雰囲気を出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光等は配慮している。スタッフの足音や声のトーン等も気がけている。手作りカレンダーや飾りで季節感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中に独りになれる場所はないが、気の合う入居者同士過ごせる居場所の工夫は行っている。和室があるが比較的静かに過ごせる場所(共用空間の中でも)である。		

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し馴染みのある物や使い慣れた物を持ってきてもらっている。ただ、協力の得られないご家族もいる事も事実である。		今後も協力を得られる様にアプローチを行っていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の居室掃除などの換気は気がけて行っている。廊下・リビングも同様に換気を行っている。温度調節は入居者様のレベルに応じてスタッフが声かけを行ったり、設定をしている。朝に限らず匂いが気なる居室や場所は都度換気を行っている。		今後も換気を行い、温度調節を行っていく。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置を行い、歩行等の援助を行なっている。入居者一人ひとりに合わせた援助方法を工夫している。レク(指体操)や書道等趣味を中心とした手指のリハも行なっている。		下肢筋力保持のため、手すりを持つてのつたい歩きや立位保持等行っている。今後もレクや趣味を中心とした手指のリハも行っていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者様のレベルに合わせて工夫している。又、混乱し失敗等問題がある場合はスタッフ間での情報共有・相談し改善・対応策を立てている。必用であれば主治医に相談している。		問題行動等ある入居者様の対応についてスタッフ間で情報を共有し、対応法・声かけ方等改善策を探している。今後もおこなっていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	活動出来るか…と言われると出来ないが、外の景色等楽しめるよう日勤帯ベランダ・バルコニーを開錠している。		ベランダの活用を行う。花などを植えたい。(今まで何度か試みたがなかなか育たない為、土から変えてみる。)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム和ごころ 竹とんぼ棟

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

プライベートな時間を大切にしている。